

## スポーツ研究センター

### I 2014年度大学評価委員会の評価結果への対応

昨年度の評価において「運営やマネジメント上の新たな課題が発生することについても検討する余地がある」との助言を受けた。そこで昨年度中に、内部質保証委員（前所長）を選出し、内部質保証を実施している。さらに今年度は、客員所員を委嘱するための内規の策定や、所員が学内外の研究者と共同研究を行うことを促す仕組み（研究プロジェクト制度）の策定を目指す。

### II 現状分析

<b>1 理念・目的</b>
1.1 理念・目的は、適切に設定されているか。 <u>①研究所（研究センター）として目指すべき方向性等を明らかにした理念・目的が設定されていますか。</u> 法政大学スポーツ研究センター規程（資料番号1）において、センターの目的や具体的な事業を設定している。
1.2 理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。 <u>①理念・目的はホームページ等で、社会一般に対して周知・公表されていますか。</u> 法政大学スポーツ研究センターのホームページ（資料番号2）において、法政大学スポーツ研究センター規程を公開している。
1.3 理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。 <u>①理念・目的の適切性を定期的に検証していますか。また、その検証プロセスを説明してください。</u> 運営委員会を年間3回程度開催し、目的や具体的な事業の適切性について、所員間で意見交換を行っている。実際、適切性に鑑みて、法政大学スポーツ研究センター規程を、2013年度（2012年度中に改定を決定）と2015年度（2014年度中に改定を決定）に改定している。
<b>2 研究活動</b>
2.1 研究所の理念・目的に基づき、研究・教育活動が適切に行われているか。 2014年度の活動状況について項目ごとに具体的に記入してください。 <u>①研究・教育活動の実績（プロジェクト、シンポジウム、セミナー等）</u> 運営委員会を年間3回程度開催し、活動状況を確認している。また、センター主管で新入生の体力測定を実施し、全学・学部等を単位として集計を行った上で結果を紀要で公開し、授業等で利用している。さらに、スポーツ研究センターの公開講座として、テニス・サッカー・バドミントン教室等を開催している。 <u>②対外的に発表した研究成果（出版物、学会発表等）</u> スポーツ研究センターの紀要を創刊号（1987年度）から第33号（2014年度）まで、継続して年1回発行しており、研究成果の公開を行っている。また、所員個人ごとに学術論文や学会において多数報告・発表している。 <u>③研究成果に対する社会的評価（書評・論文引用等）</u> 各所員の発表した研究論文や著書については、他の論文等各所で引用されている。また、研究成果を評価され、スポーツ専門誌で連載記事を担当している所員も存在している。 <u>④研究所（研究センター）に対する外部からの組織評価（第三者評価等）</u> 各所員が個々で学会に所属して、精力的に学術活動を行っている。そのことで、センターに対する評価も高まっていると考えられる。 <u>⑤科研費等外部資金の応募・獲得状況</u> 所員の大多数は科研費の申請を行い、これまでも年に数件の科研費を獲得している。また、各所員の所属学部において、財団法人等からの研究助成金等を受託した事例もある。
<b>3 管理運営</b>
3.1 明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか。 <u>①所長（センター長）をはじめとする所要の職を置き、また運営委員会等の組織を設け、これらの権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。</u> スポーツ研究センターに所長1名、副所長2名、所員等をおき、運営委員会を組織している。さらに、法政大学スポーツ研究センター規程を定め、規程に則って、運営委員会を年間3回程度開催している。
<b>4 内部質保証</b>
4.1 内部質保証システム（質保証委員会等）を適切に機能させているか。 <u>①質保証に関する各種委員会は適切に活動していますか。</u>

原則、年間3回程度開催される運営委員会と、全所員間のメール審議によって、全所員が参画して自己点検評価を行っている。2014年度中に、内部質保証委員は、原則として前所長が担当するという内規を定め、現在は、前所長が内部質保証委員を担当している。

②質保証活動への教員の参加状況を説明してください。

内部質保証委員との意見交換だけでなく、年間3回程度開催される運営委員会と、全所員間のメール審議によって、全所員が参画して自己点検評価を行っている。

**社会連携・社会貢献【任意項目】**

教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。

・地域交流や国際交流事業に関する取り組みを行っていますか。

スポーツ研究センターの公開講座として、テニス・サッカー・バドミントン教室等を開催している。

**現状分析根拠資料一覧**

資料番号	資料名
1	理念・目的
1	<a href="http://www.hosei.ac.jp/taiku/regulation/kitei.docx">http://www.hosei.ac.jp/taiku/regulation/kitei.docx</a>
2	<a href="http://www.hosei.ac.jp/taiku/rpes.html">http://www.hosei.ac.jp/taiku/rpes.html</a>

**III. 研究所の重点目標**

重点目標：昨年度の「現有の人的資源を最大限に活用する」というコンセプトをさらに発展させ、「現有の人的資源を最大限に活用することの持続可能性を高める」というコンセプトを設定する。そのために、以下の施策を実施する。  
 施策：1) 2014年度中に策定した客員所員を委嘱するための運用方法を精査して、内規を定め、明文化する。2) 所員が学内外の研究者と共同研究を行うことを促す仕組み（研究プロジェクト制度）を策定し、実行を目指す。

**IV 2014年度目標達成状況**

No	評価基準	教員・教員組織
1	中期目標	スポーツ・健康科学またはその関連領域を専門とする専任教員に対し、所員になるよう呼びかけるだけでなく、当該領域を専門とする本学兼任講師または現所員の共同研究者に、客員所員として参画してもらうことを目指す。
	年度目標	本学兼任講師や、現所員が共同研究を行っている学内外の研究者を招聘し、客員所員として委嘱するための仕組みを作る。
	達成指標	2015年度からの運用開始を目指して、客員所員を委嘱するための運用方法を定める。
	年度末報告	自己評価
理由		スポーツ研究センター規程に基づいて、客員所員の委嘱に関する内規を2014年12月17日の運営委員会で定めた。その上で、2015年3月12日の運営委員会において、2015年4月1日から、3名の客員所員を委嘱することを決定した。
改善策		—
No	評価基準	教育研究等環境
2	中期目標	①さらなる研究の実施と研究成果の発表を促すために、研究環境を整備する。 ②研究所研究助成金の継続獲得および助成金の有効な執行を目指す。 ③科研費申請実績および獲得実績のさらなる向上を図る。 ④スポーツ施設が安全に利用されるよう、環境を整備する。
	年度目標	①本学兼任講師が、研究成果を紀要に投稿しやすいように、紀要の投稿規程を改定する。 ②倫理委員会の設置に向けた設置準備委員会を開設し、活動を開始する。 ③所員間の共同研究を促進するために、所員を対象とした会合を開催する。 ④全所員が科研費に申請することを目指して、科研費申請のための支援体制を構築する。 ⑤研究所研究助成金を適切かつ確実に執行する。 ⑥市ヶ谷総合体育館トレーニングセンターの管理体制を拡充する。 ⑦多摩トレーニングセンターのトレーニング機材の充実を図る。

	達成指標	<p>①本学兼任講師が、学外の研究者紀要に論文を投稿する際、学外者が筆頭者になれるように投稿規程を改定する。</p> <p>②2015年度の倫理委員会設置を目指し、倫理委員会の設置準備委員会を開設し、設置に向けた活動を開始する。</p> <p>③所員を対象とした研究報告会または情報交換会を開催する。</p> <p>④全所員が科研費を申請することを目指して、科研費申請のためのルールを作成する。</p> <p>⑤運営委員会において、研究所研究助成金の使途を話し合う。その上で、確実に執行する。</p> <p>⑥2015年度より、市ヶ谷総合体育館トレーニングセンターのトレーナーの人員および配置時間を増やす。</p> <p>⑦多摩トレーニングセンターのトレーニング機材をリニューアルする。</p>
	年度末報告	<p>自己評価 S</p> <p>理由</p> <p>①2014年12月17日の運営委員会において、本学兼任講師が、研究成果を投稿しやすいように、紀要の投稿規程を改定した。</p> <p>②2014年7月23日の運営委員会において、倫理委員会の設置準備委員会（委員は2名）を設け、倫理委員会設置に向けた具体的検討を開始した。</p> <p>③2015年3月12日の運営委員会の開催後に、所員を対象とした研究プロジェクト報告会を開催した。</p> <p>④2014年7月23日の運営委員会において、兼担所員が科研費に申請することを促す内規を制定した。</p> <p>⑤2014年7月23日の運営委員会において、研究所研究助成金の使途を決定し、年度末までに執行した。</p> <p>⑥2014年12月17日の運営委員会において、2015年度の市ヶ谷総合体育館トレーニングセンターのトレーナーの人員および配置時間を増やすことを決定した。</p> <p>⑦多摩トレーニングセンターのトレーニング機材をリニューアルした。</p> <p>改善策 —</p>
No	評価基準	社会連携・社会貢献
3	中期目標	多摩キャンパスだけでなく、市ヶ谷キャンパスおよび小金井キャンパスにおいても、周辺地域と交流・連携し、地域が抱える課題解決に貢献することで、地域社会への貢献を目指す。
	年度目標	<p>①小金井地区の周辺地域に対して、地域貢献活動を行うことを目指して、具体的な検討を行う。</p> <p>②スポーツ教室において、イベントビデオを収録することを検討する。</p>
	達成指標	<p>①小金井地区の学内外の関係者に呼びかけて、地域貢献活動の実施に向けたミーティングを開催する。</p> <p>②運営委員会において、スポーツ教室におけるイベントビデオ収録の可否を検討する。</p>
	年度末報告	<p>自己評価 S</p> <p>理由</p> <p>①小金井地区の学内外の関係者（本学教員とNPO法人総合型地域スポーツクラブ黄金井倶楽部のスタッフ等）に参加してもらい、地域貢献活動の実施に向けたミーティングを複数回にわたって開催した。</p> <p>②原則として、スポーツ教室におけるイベントビデオの収録を行うことを決め、本年度開催した3つのスポーツ教室の様子をビデオに収録し、HURNにおいて公開した。</p> <p>改善策 —</p>
No	評価基準	内部質保証
4	中期目標	内部質保証について、所員による相互チェックが働く仕組みを構築する。
	年度目標	内部質保証の担当委員を設ける。
	達成指標	現所員の中から、内部質保証の担当委員を選出する。
	年度末報告	<p>自己評価 S</p> <p>理由</p> <p>前所長である兼担所員が、質保証委員に就任する内規を定め、運用を開始した。質保証委員は、運営委員会で具体的な指摘をするだけでなく、執行部とも頻繁にコミュニケーションを取るなど、内部質保証に貢献している。</p> <p>改善策 —</p>

## V 2015 年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教員・教員組織
1	中期目標	スポーツ・健康科学またはその関連領域を専門とする専任教員に対し、所員になるよう呼びかけるだけでなく、当該領域を専門とする本学兼任講師または現所員の共同研究者に、客員所員として参画してもらうことを目指す。
	年度目標	2014 年度中に策定した客員所員を委嘱するための運用方法を精査して、内規を定める。
	達成指標	2014 年度中に策定した客員所員を委嘱するための運用方法を精査して、内規を定め、明文化する。
No	評価基準	教育研究等環境
2	中期目標	①さらなる研究の実施と研究成果の発表を促すために、研究環境を整備する。
	年度目標	①客員所員が科研費申請を行うことを支援する。
	達成指標	①客員所員が科研費申請を行う実績を作る。
No	評価基準	教育研究等環境
3	中期目標	②研究所研究助成金の継続獲得および助成金の有効な執行を目指す。
	年度目標	②研究所研究助成金を適切かつ確実に執行する。
	達成指標	②運営委員会において、研究所研究助成金の使途を話し合う。その上で、確実に執行する。
No	評価基準	教育研究等環境
4	中期目標	③科研費申請実績および獲得実績のさらなる向上を図る。
	年度目標	③所員が学内外の研究者と共同研究を行うことを促す仕組みを作り、実行する。
	達成指標	③所員が学内外の研究者と共同研究を行うことを促す仕組み（研究プロジェクト制度）を策定し、実行する。
No	評価基準	教育研究等環境
5	中期目標	④スポーツ施設が安全に利用されるよう、環境を整備する。
	年度目標	④トレーニングセンターを管理するトレーナー業務を見直す。
	達成指標	④各地区の所員に対して、各地区のトレーニングセンターに勤務しているトレーナーの業務に関するヒアリングを行い、改善点が確認された場合は、トレーナーに対して改善を要請する。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
6	中期目標	多摩キャンパスだけでなく、市ヶ谷キャンパスおよび小金井キャンパスにおいても、周辺地域と交流・連携し、地域が抱える課題解決に貢献することで、地域社会への貢献を目指す。
	年度目標	①市ヶ谷地区において開催されるスポーツ関連学会の運営に貢献する。
	達成指標	①市ヶ谷地区において開催されるスポーツ関連学会に、複数の所員が事務局として関与する。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	多摩キャンパスだけでなく、市ヶ谷キャンパスおよび小金井キャンパスにおいても、周辺地域と交流・連携し、地域が抱える課題解決に貢献することで、地域社会への貢献を目指す。
	年度目標	②小金井地区の周辺地域に対して、地域貢献活動を行う。
	達成指標	②必要に応じて学外組織と連携しながら、小金井地区においてスポーツ教室等を実施する。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
8	中期目標	多摩キャンパスだけでなく、市ヶ谷キャンパスおよび小金井キャンパスにおいても、周辺地域と交流・連携し、地域が抱える課題解決に貢献することで、地域社会への貢献を目指す。
	年度目標	③オリンピック・パラリンピックに関する講座等を開催するための具体的な検討を行う。
	達成指標	③運営委員会において、オリンピック・パラリンピックに関する講座等を開催するための具体的な検討を行う。
No	評価基準	内部質保証
9	中期目標	内部質保証について、所員による相互チェックが働く仕組みを構築する。
	年度目標	内部質保証委員から、定期的にチェックを受ける。
	達成指標	全ての運営委員会（年 3～4 回開催予定）の前後に一度ずつ、内部質保証委員からチェックを受ける。

## VI 2012 年度認証評価 努力課題に対する改善計画（報告）書

該当なし

## VII 大学評価報告書

大学評価委員会の評価結果への対応に関する所見	
	<p>スポーツ研究センターでは、昨年度の評価において、「組織が拡大することで運営やマネジメント上の新たな課題が発生することについても検討する余地がある」との助言を受け、内部質保証委員に関する内規を定め、委員を委嘱し内部質保証活動についての実施体制の整備を図っている。また、年度目標としていた客員所員の委嘱に関する内規の制定による3名の客員所員の委嘱、兼任講師が投稿可能とする紀要の投稿規程の改定、倫理委員会設置準備委員会の設置による倫理委員会設置に向けた検討、研究プロジェクト報告会の開催、小金井地区への地域貢献活動に向けたミーティングの開催など、昨年度「現有の人的資源を最大限に活用する」とのコンセプトのもと、実現可能な目標を設定した上での確に事業を推進している点は、高く評価できる。今年度は、「現有の人的資源を最大限に活用することの持続可能性を高める」とのコンセプトを設定しており、その成果を期待したい。</p>
現状分析に関する所見	
1 理念・目的	
1.1 理念・目的は、適切に設定されているか。	<p>スポーツ研究センターは、法政大学スポーツ研究センター規程において、センターの目的や具体的な事業を設定し、目指すべき方向性が明らかにされている。</p>
1.2 理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。	<p>スポーツ研究センターは、ホームページにおいて、法政大学スポーツ研究センター規程を公開し、理念・目的を社会一般に対して周知・公表を図っている。</p>
1.3 理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。	<p>スポーツ研究センターでは、年間3回程度開催される運営委員会により、目的や事業の適切性等、適宜その検証を図っている。また、今年度から運用される内部質保証活動によって、この点の検証が高まることを期待したい。</p>
2 研究活動	
2.1 研究所の理念・目的に基づき、研究・教育活動が適切に行われているか。	<p>スポーツ研究センターでは、センター主管による新入生の体力測定の実施、その結果の紀要による公開、テニス・サッカー・バドミントン教室の開催などの研究・教育活動を行っている。2014年度には2件の研究プロジェクトが実施された。具体的には、1)「体力測定」プロジェクト、2)「プロスポーツクラブとファンの関係性の維持・向上に資する情報の収集および分析」プロジェクトである。</p> <p>対外的に紀要を年1回発行しており、研究成果の公開を図っている。「体力測定」プロジェクトの成果は、2014年度末に発行された「法政大学スポーツ研究センター紀要」第33号に掲載されている。また、所員個人ごとに精力的に学術論文や学会において研究成果を報告している。</p> <p>センターのホームページに「スポーツ研究センター兼担所員」というページを設けて、所員の名前を一覧できるようにしている。教員の氏名をクリックすると、「法政大学学術研究データベース」内の各教員のページにアクセスできるようになっている。各所員の発表した研究論文や著書は他の論文等各所で引用されている。また、スポーツ専門誌で連載記事を担当している所員もあり、一定の社会的評価を得ている。具体的には、Google Scholar等を用いて被引用状況を検索したところ、国内外において、少なくとも352件の被引用を確認している。</p> <p>しかしながら、第三者評価については実施していない。これはキャンパスが3カ所に分かれており、教員の聞き取りなど組織評価の実施に大きな負担になることを懸念しているためである。本件は今後の検討課題とし、なるべく早く実施することを期待している。</p> <p>科研費等外部資金の応募や獲得については、所員の大多数が科研費の申請を行い、年に数件の科研費を獲得している。また、各所員の所属学部において、財団法人からの研究助成金を受託した事例がある。</p>
3 管理運営	
3.1 明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか。	<p>スポーツ研究センターでは、現在、所長1名、副所長2名、所員17名、運営委員会が委嘱する本学教員1名、学生支援本部担当理事1名、保健体育部長1名で運営委員会を組織している。法政大学スポーツ研究センター規程に則って、運営委員会を年3回程度開催し、規程に則った運営が図られている。</p>
4 内部質保証	
4.1 内部質保証システム（質保証委員会等）を適切に機能させているか。	<p>スポーツ研究センターでは、2014年度に内部質保証委員に関する内規を定め、委員を委嘱し内部質保証を実施している点</p>

<p>は評価できる。今年度の内部質保証活動の機能が実質的に高まることを期待したい。</p> <p>さらに、年3回程度開催される運営委員会と、全所員間のメール審議によって、全所員が自己点検・評価活動に参画するように図っている。</p>
<p><b>社会連携・社会貢献【任意項目】</b></p>
<p>教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。</p> <p>スポーツ研究センターの公開講座として、テニス・サッカー・バドミントン教室等を開催して、地域交流に取り組んでいるのは評価できる。</p> <p>また、国際交流の一環として、オリンピック・パラリンピックに関する講座を検討中である。</p>
<p><b>2014年度目標の達成状況に関する所見</b></p>
<p>スポーツ研究センターでは、昨年度「現有の人的資源を最大限に活用する」とのコンセプトのもと、各項目において、実現可能な目標を設定した上での確に事業を推進しており、その点で高く評価できる。なお、外部による第三者評価が体制上実現不可能であるならば、所員の研究業績等や、研究プロジェクトや公開講座の内容や成果等について、紀要やHP等にもう少し詳しく掲載するなどを通して可視化することで、そのプレゼンスをさらに高めるよう期待したい。</p>
<p><b>2015年度中期・年度目標に関する所見</b></p>
<p>スポーツ研究センターの2015年度中期・年度目標において、教員・教員組織では、所員や客員所員の拡充、教育研究等環境では、研究プロジェクトの実施、社会連携・社会貢献では、新たにオリンピック・パラリンピックに関する講座を開催するための検討、内部質保証では、内部質保証委員の役割についてあげられている。これらの目標は、現行の人員体制やこれまでの実績から鑑みて適切、具体的であり、その実現に期待したい。</p>
<p><b>総評</b></p>
<p>スポーツ研究センターでは、これまでの自己点検・評価活動に対して、実現可能な目標に修正した上での確に事業を推進し、真摯に取り組んでいることがうかがわれ、この点は高く評価できる。今後は、内部質保証委員を拡充しながら、第三者評価も考慮し、チェック機能がよりよく働く仕組みを構築することを期待したい。さらに、このような実現可能な目標の設定と着実な実施を継続するとともに、社会的には、2020年度のオリンピック・パラリンピックを控え、本領域に対する関係者・一般市民の関心が高まっているおりから、外部資金の獲得等によって、よりその存在感が高められるよう、今後の社会的役割の向上にも期待したい。</p>